

問 23 HIV感染者やエイズ患者が日本で増加していることに対して、あなたはどのように思いますか。次のうちからあなたの意見に最も近いものの番号1つに○をつけてください。

	回 答 者 数	対総回答者数比
重要な問題であり、身近で起こることもあり得る	680	66.67%
重要な問題であるが、身近で起こる可能性は低い	155	15.20%
自分にはまず関係ないので、重要な問題ではない	19	1.86%
わからない	114	11.18%
無効・無回答	52	5.10%

(有効回答 968人 回収数比 94.81%)

問 24 次のうちから、HIVの感染経路であるとあなたが思うすべての番号に○をつけてください。

	回 答 者 数	対総回答者数比
性交渉	868	91.75%
せき、くしゃみなどの飛沫感染	69	7.29%
握手や抱擁などの接触	10	1.06%
かみそりや注射器の共用	726	76.74%
お風呂やプールの共用	40	4.23%
蚊やダニなどの昆虫による媒介	136	14.38%
輸血や血液製剤などの医療行為	791	83.62%
妊娠・出産にともなう母子感染	545	57.61%
洋式トイレ（便座）や電車のつり革などの器物による媒介	30	3.17%

(総回答者数 946人 回収数比 92.65%)

問 25 次の(A)～(E)それぞれの場面において、相手がHIV感染者やエイズ患者の場合、あなたはどのように思いますか。あなたの意見に最も近いものの番号1つに○をつけてください。

	全く気にならない	少し不安がある	抵抗感がある	わからない	無効・無回答
(A) 結婚の相手	13 1.27%	126 12.35%	716 70.20%	83 8.14%	82 8.04%
(B) 職場の同僚	231 22.65%	398 39.02%	161 15.78%	119 11.67%	111 10.88%

	全く気にならない	少し不安がある	抵抗感がある	わからない	無効・無回答
(C) 交際相手や友達	97 9.51%	358 35.10%	354 34.71%	102 10.00%	109 10.69%
(D) サークルなどのグループ活動の仲間	308 30.20%	358 35.10%	133 13.04%	116 11.37%	105 10.29%
(E) 地域や近所の人	375 36.76%	290 28.43%	121 11.86%	136 13.33%	98 9.61%

有効回答：回収数比 (A)938人：91.87% (B)909人：89.03% (C)911人：89.23% (D)915人：89.62%  
(E)922人：90.30%

問 26 ハンセン病に関する次の(A)～(C)それぞれについて、あなたが正しいと思うものの番号1つに○をつけてください。

(A) 病名について

	回 答 者 数	対総回答者数比
知っている	772	75.69%
知らない	190	18.63%
無効・無回答	58	5.69%

(有効回答 962人 回収数比 94.22%)

(B) 発症原因について

	回 答 者 数	対総回答者数比
細菌感染	227	22.25%
遺伝性	34	3.33%
原因不明	93	9.12%
わからない	583	57.16%
無効・無回答	83	8.14%

(有効回答 937人 91.77%)

(C) 治療について

	回 答 者 数	対総回答者数比
服薬などで完治する	170	16.67%
服薬などで症状の緩和または進行は抑えられる	218	21.37%
治療できない	32	3.14%
わからない	520	50.98%
無効・無回答	80	7.84%

(有効回答 940人 92.07%)

問 27 次の(A)～(E)それぞれの場面において、相手がハンセン病元患者やその家族の場合、あなたはどのように思いますか。あなたの意見に最も近いものの番号1つに○をつけてください。

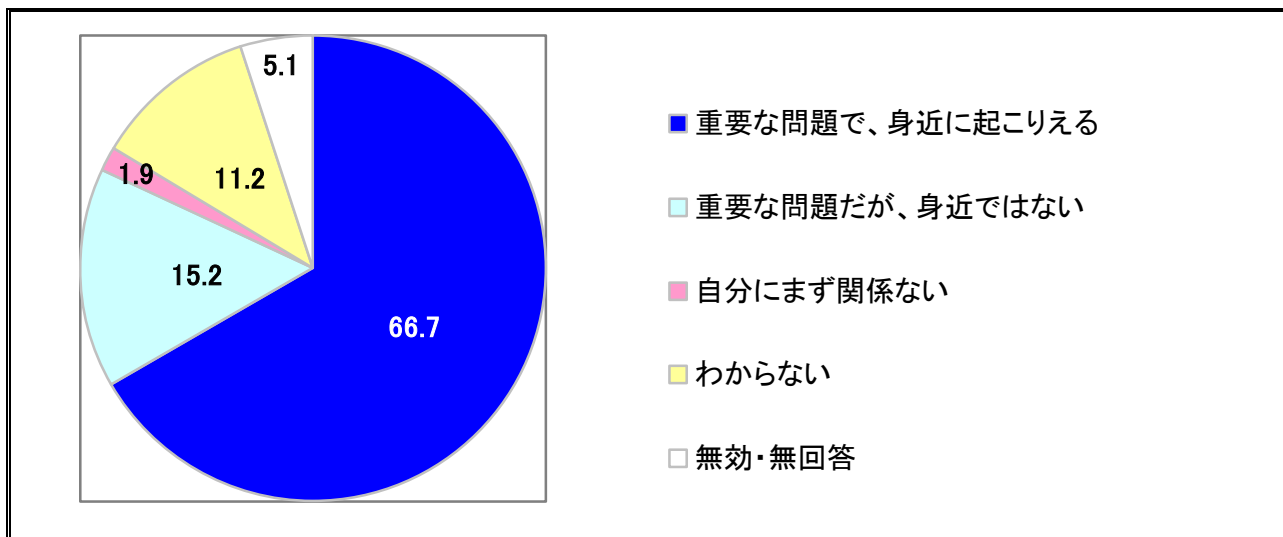
	全く気にならない	少し不安がある	抵抗感がある	わからない	無効・無回答
(A) 結婚の相手	45 4.41%	212 20.78%	376 36.86%	291 28.53%	96 9.41%
(B) 職場の同僚	231 22.65%	239 23.43%	127 12.45%	301 29.51%	122 11.96%
(C) 交際相手や友達	136 13.33%	251 24.61%	215 21.08%	294 28.82%	124 12.16%
(D) サークルなどのグループ活動の仲間	275 26.96%	222 21.76%	103 10.10%	298 29.22%	122 11.96%
(E) 地域や近所の人	308 30.20%	208 20.39%	91 8.92%	303 29.71%	110 10.78%

有効回答：回収数比 (A)924人：90.50% (B)898人：87.95% (C)896人：87.76% (D)898人：87.95%  
(E)910人：89.13%

調査票（青）の問23から問25までは、HIV・AIDSの問題について質問した。

## ■ 関心度

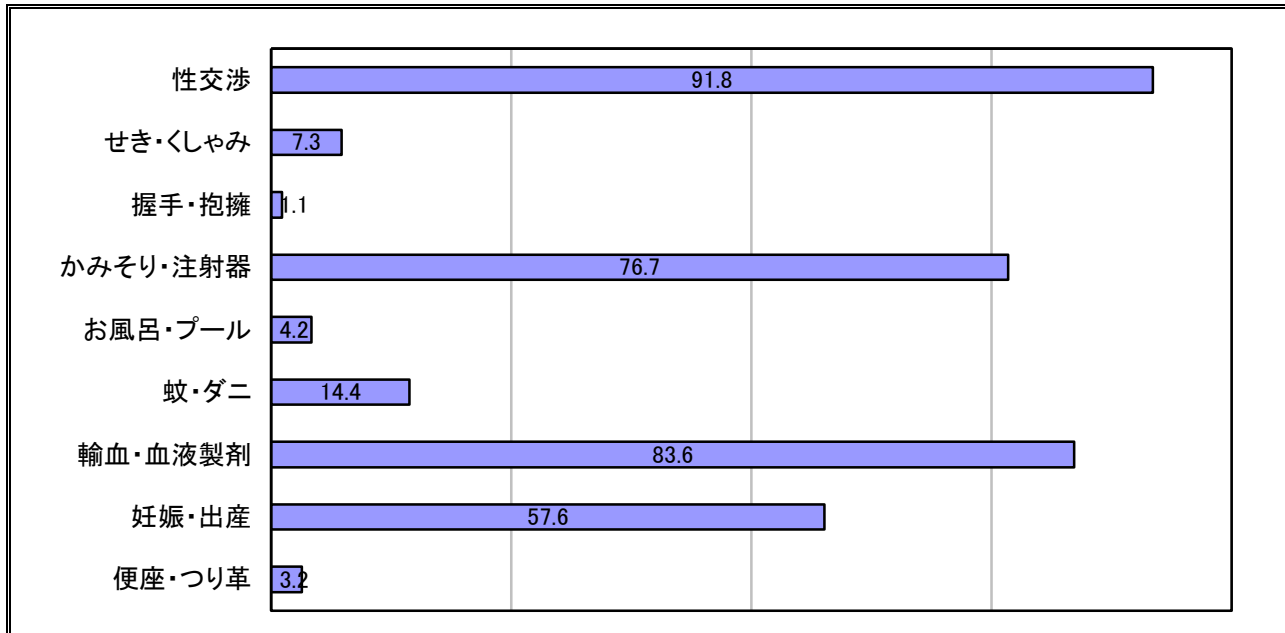
問23では、HIV感染者やエイズ患者が日本で増加していることに対して、関心があるかどうかを質問した。



最も多かった回答は、「重要な問題であり、身近で起こることもあり得る」で、66.67%の人が選択した。「重要な問題であると考えるが、身近で起こる可能性は低い」の15.2%と合わせると、80%以上の人が、HIV感染者やエイズ患者の増加を重要な問題であると認識している。

## ■ HIVの知識

問24では、HIVの感染経路について質問し、HIV、エイズに関する正しい理解度を調査した。

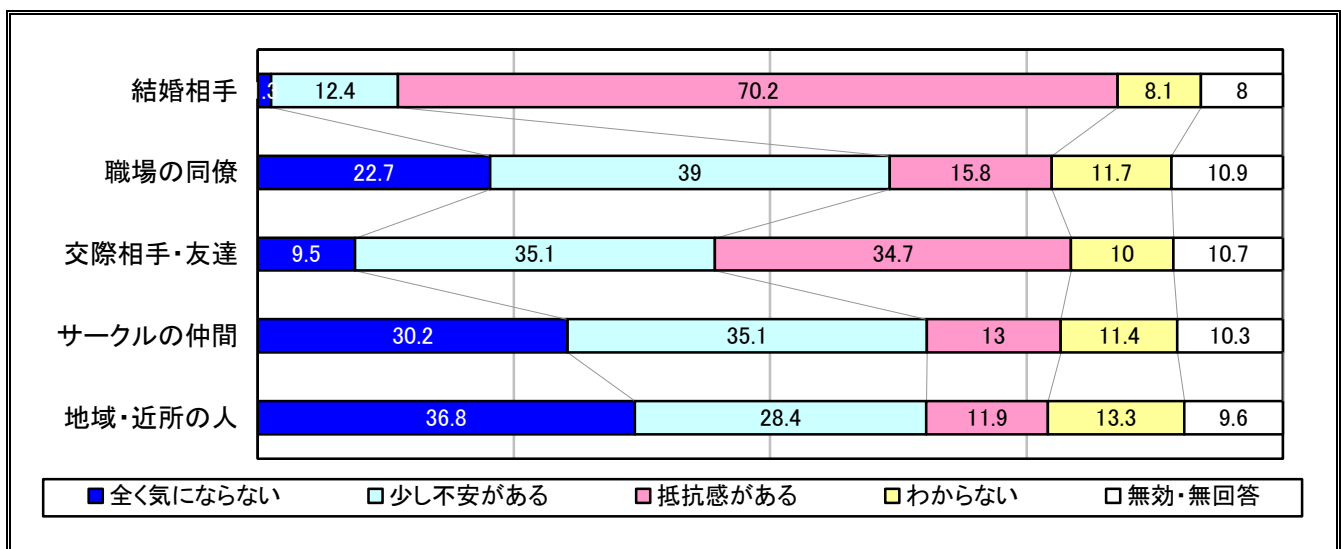


過半数以上の人を選択した回答では、「性交渉」が 91.75%、「かみそりや注射器の共用」が 76.74%、「輸血や血液製剤などの医療行為」が 83.62%、「妊娠・出産にともなう母子感染」が 57.61%と、感染経路については一定水準で認識されている。

しかし一方で、前述の4項目すべてを選択した人は、全回答者中 35%で、正確な理解が進んでいるとは言いがたい。

## ■ 日常生活における意識

問25では、HIV感染者やエイズ患者に対する、日常のさまざまな場面における意識について調査した。



「全く気にならない」という回答が最も多かったのは、「(E)地域や近所の人」で36.76%、最も少なかったのは、「(A)結婚の相手」で1.27%だった。

「抵抗感がある」という回答が最も多かったのは、「(A)結婚の相手」で70.2%、最も少なかったのは、「(E)地域や近所の人」で11.86%だった。

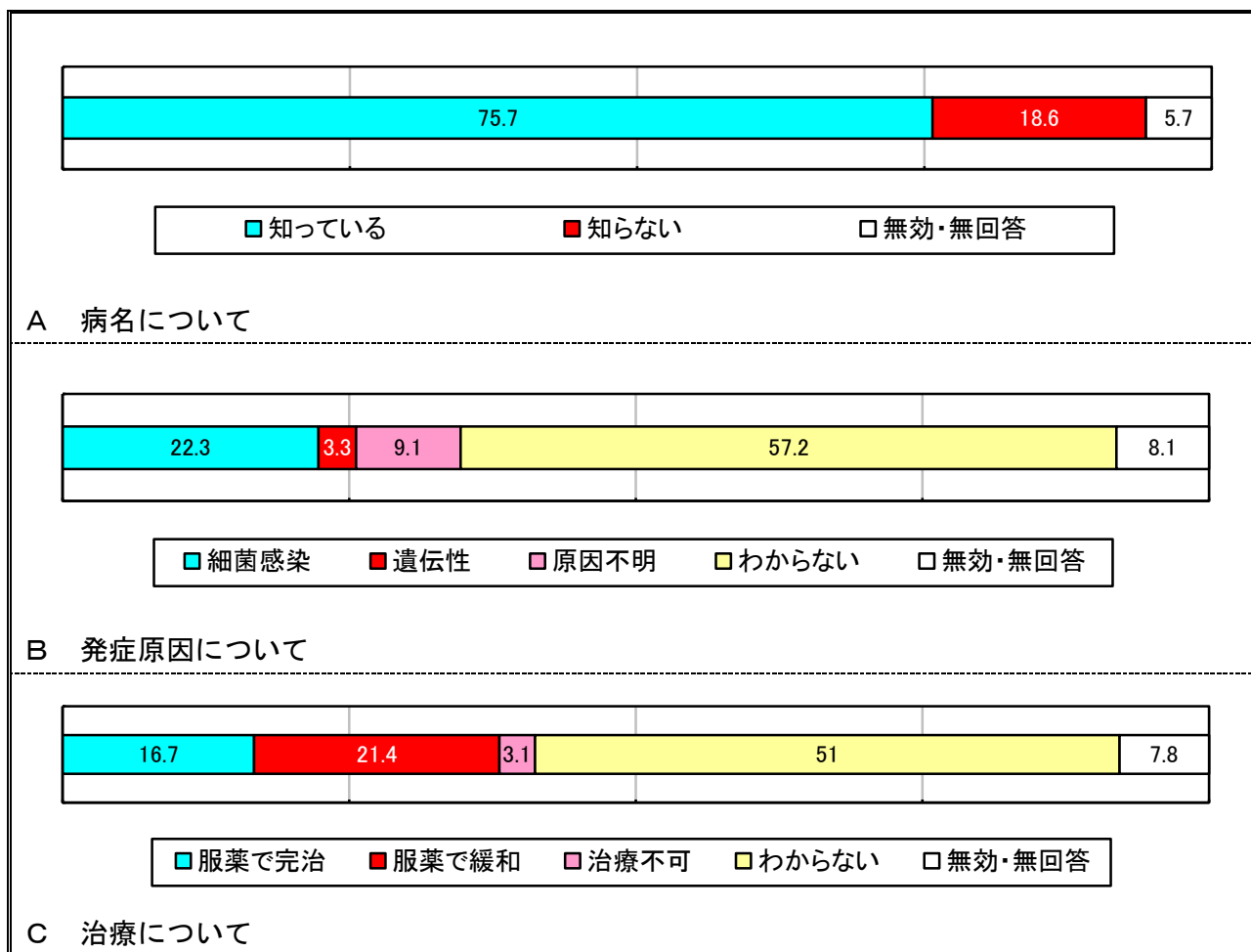
「抵抗感がある」が、「全く気にならない」を上回ったのは、「(A)結婚の相手」と「(C)交際相手や友達」の場合という結果となった。

## 感染症患者等の人権問題（青票） ～ ハンセン病 ～

問26、問27では、ハンセン病の問題について質問した。

### ■ ハンセン病の理解

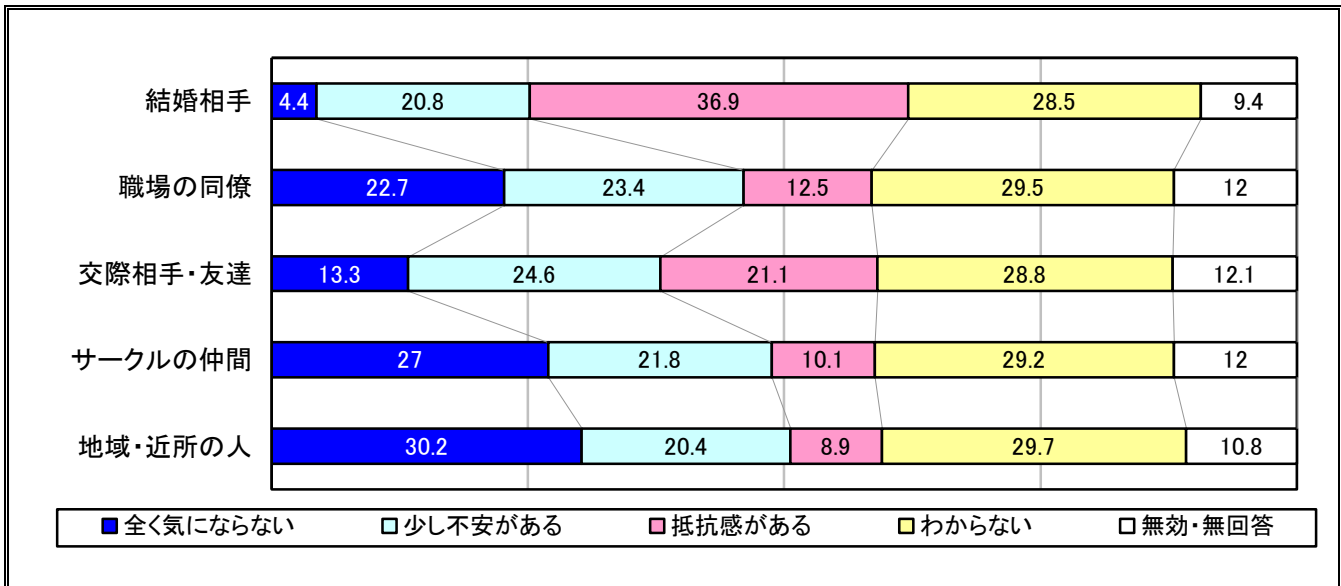
問26では、ハンセン病に関する基本的知識について質問した。



「ハンセン病」という病名については、75%の人が「知っている」と回答したが、発症原因、治療については、「わからない」という意見が過半数を超えており、十分な認知が進んでいるとは言いがたい。

## ■ 日常生活における意識

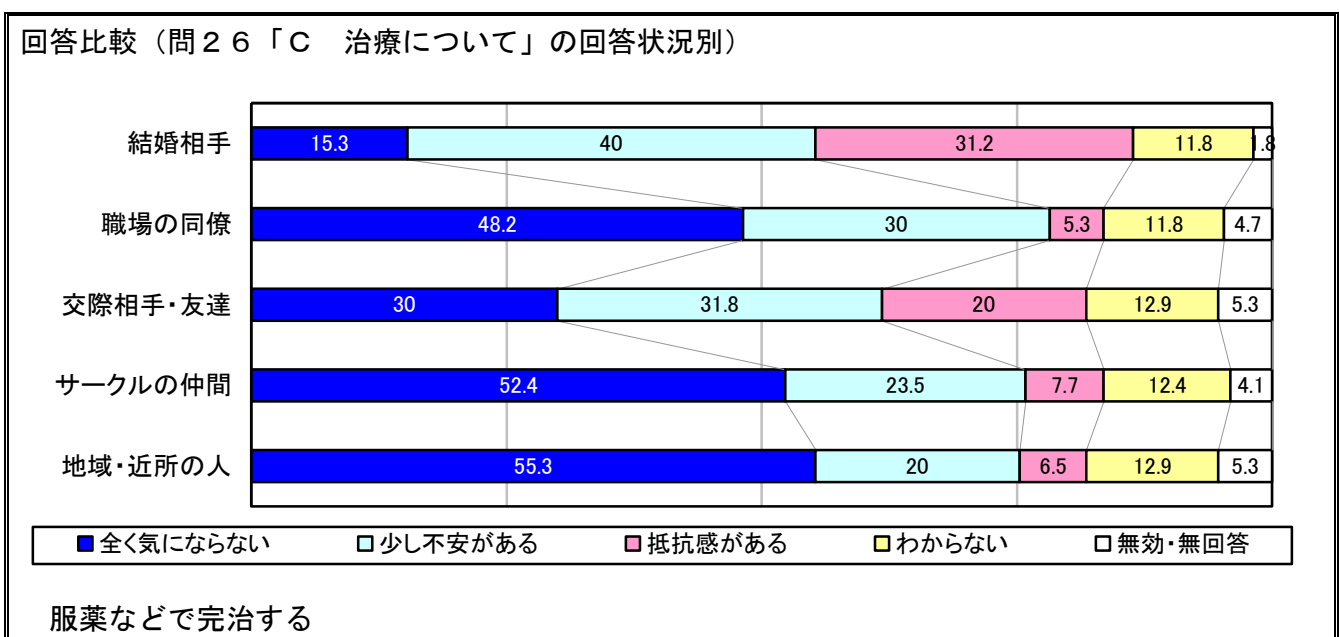
問27では、ハンセン病元患者やその家族に対する、日常のさまざまな場面における忌避の意識について調査した。

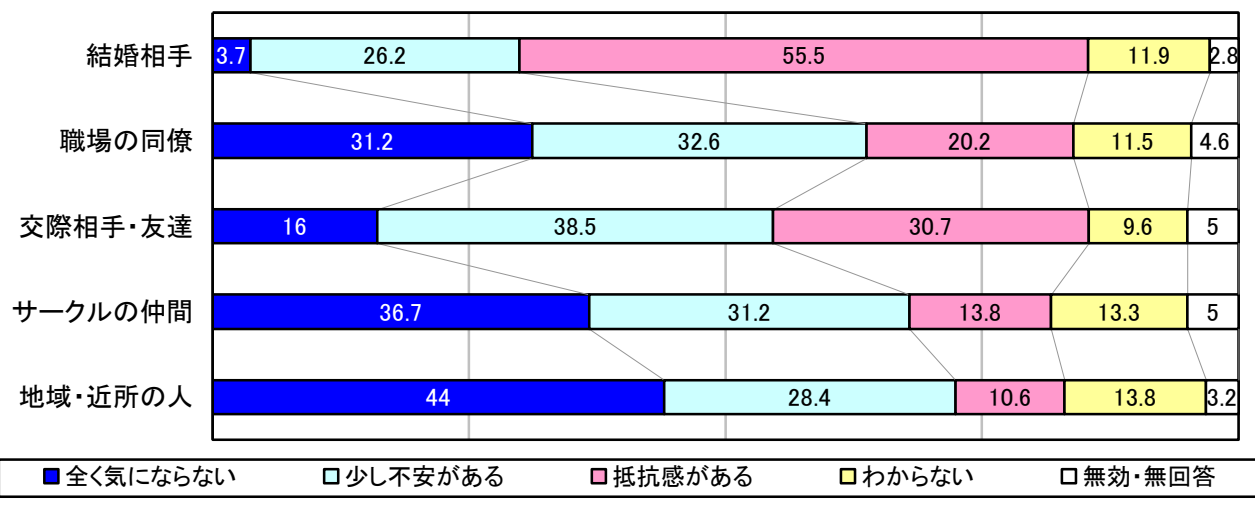


「全く気にならない」という回答が最も多かったのは、「(E)地域や近所の人」の場合で30.2%、最も少なかったのは、「(A)結婚の相手」の場合で4.41%だった。

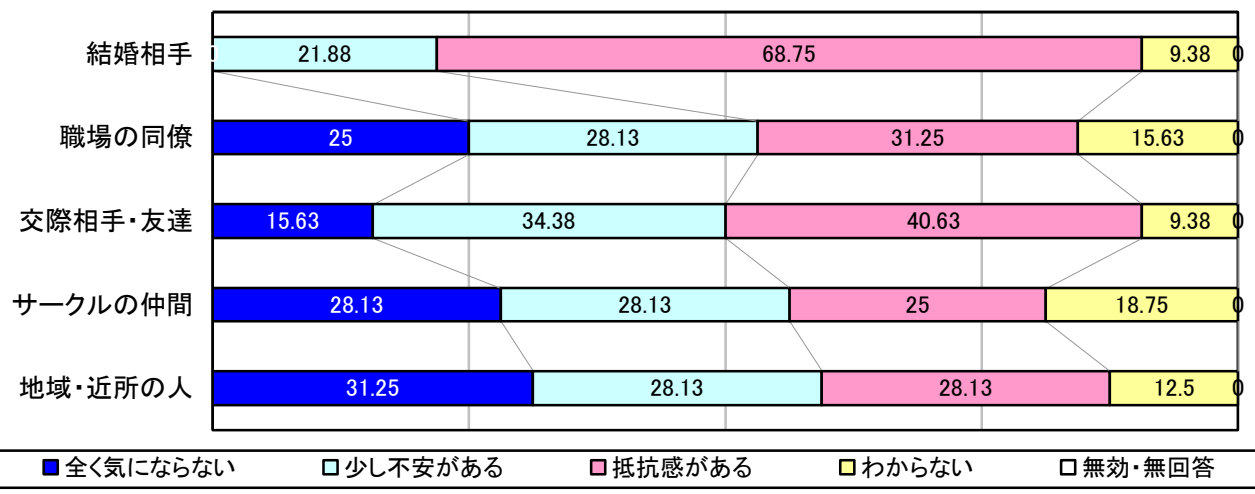
「抵抗感がある」という回答が最も多かったのは、「(A)結婚の相手」の場合で36.86%、最も少なかったのは、「(E)地域や近所の人」の場合で8.92%だった。

「抵抗感がある」という回答が、「全く気にならない」という回答を上回ったのは、「(A)結婚の相手」と「(C)交際相手や友達」の場合という結果となった。

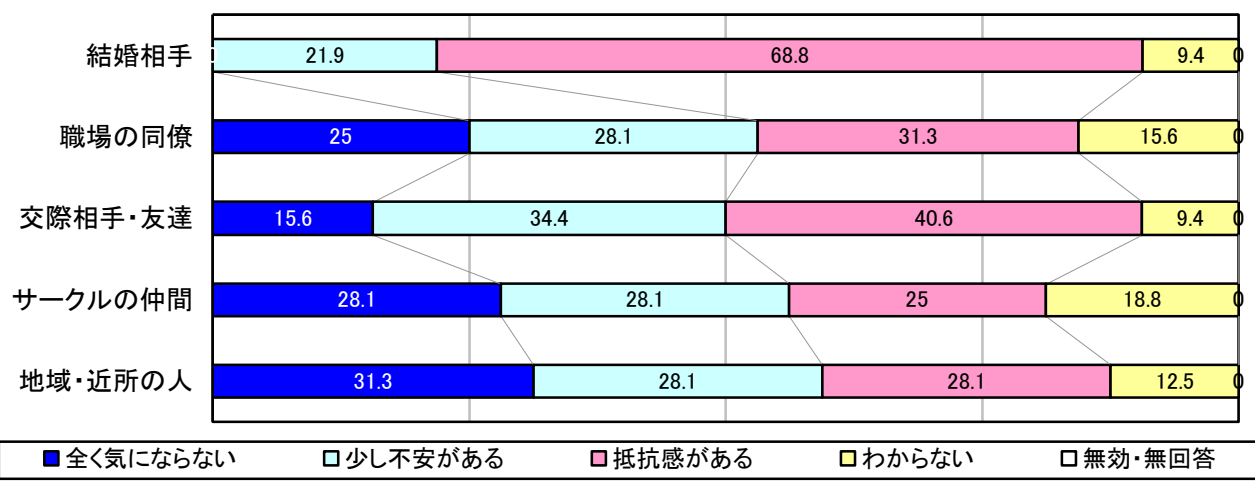




服薬などで症状の緩和または進行は抑えられる



治療できない



わからない

問26 「ハンセン病に関するそれぞれについて、あなたが正しいと思うもの」で「C 治療について」

の回答状況別に比較してみると、病気が治るという認識があるほど、気にしないという意見が多くなる。

また、問26の「C 治療について」で、「わからない」と答えた人の回答では、日常生活での受け入れについて「わからない」という意見が増加し約半数を占めているが、「抵抗感がある」という意見の回答比率は全体集計とほぼ変わらず、傾向としては、抵抗感を感じる傾向にあることが分かる。